

東 書 藝

令和6年8月

<http://www.toshogei.jp/>

第71回公募 東海書道藝術院展詳報

令和六年四月九日(火)十四日(日)、第七十一回東書藝展が第一会場・愛知県美術館ギャラリー、第二会場・名古屋市民ギャラリー栄で盛大に同時開催された。八日の搬入は展示部を中心に各部門、業者の皆さんが一体となって滞りなく完了。無事開幕の準備が整った。翌九日午前十時、A展示室作品前で開場式が行われた。進行は富永奇昂副理事長。中日新聞社取締役事業局長・尾久充弘様をお迎えし、風岡五城会長、安藤清舟副会長、木村大澤理事長、大賞受賞・山本楓子さんによるテープカットは、拍手とシャッター音に包まれ、華やいだ気分が盛り上った。そして会期中、両会場で



風岡五城 会長



中日新聞社取締役事業局長
尾久充弘 様

二千人を超える来場者で賑わった展覧会最終日には、名古屋ガーデンパレスで贈賞式と祝賀会が執り行われた。贈賞式司会は井浪幸潭、壁谷桔華両常任理事。安藤副会長の開式のことばに始まり、主催者挨拶として風岡会長、中日新聞社尾久充弘様がお言葉を述べられる。贈賞では七十四名の受賞者が登壇し、晴れやかな表情が輝いていた。最後に大賞・山本楓子さんの喜びのことばで式典は幕を下した。休憩をはさみ羽根田菖風常任理



テープカット

事の司会で祝賀会が始まる。木村理事長挨拶、来賓紹介と進み、松浦白碩常任参事の乾杯の音頭で祝宴に入った。コロナの心配も薄れて漸く気兼ねなく楽しめる状況が嬉しい。そして今年も大村秀章愛知県知事・東書藝名誉会長が来場され、ありがたくご祝辞を賜ることができた。また知事賞受賞者との写真撮影にも対応いただき、誠に光栄な時間でありました。受賞者紹介など盛り上がった祝賀会も時間となり、最後に水谷紅楓常任参事の中締めで閉会となったが、各部門はまた会場に戻り搬出作業に係る事となり頭が下がる。成功は多くの力の結集の賜物であることを改めて認識し感謝したい。



富永奇昂 副理事長

東海書道藝術院作品抄録

恒例のこの頁は大村秀章名誉会長、風岡五城会長はじめ副会長、常任参事、理事長の幹部作品を掲載していますが、常任参事・西尾邑城先生の御作が遺墨となりました。悲しみに堪えません。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。尚、追悼の記事が十四頁にあります。

愛知県知事 名誉会長 大村 秀章

令和甲辰 歳首
龍躍雲津

愛知県知事 大村 秀章書

隋珠和璧

会長 風岡 五城



鑑賞される大村名誉会長

副会長 安藤 清舟

白雲の霞を渡る鶴
白鷺の影を渡る
白鷺の影を渡る
白鷺の影を渡る

翠玉は空の如く臨海中
翠玉は空の如く臨海中
翠玉は空の如く臨海中
翠玉は空の如く臨海中

常任参事 谷口 竹城

山中暮るべし
山中暮るべし
山中暮るべし
山中暮るべし

常任参事 松浦 白碩

龍天不及
龍天不及
龍天不及
龍天不及

常任参事 水谷 紅楓

向日陽の光
向日陽の光
向日陽の光
向日陽の光

常任参事 故・西尾 邑城

鷹望鵬迹

理事長 木村 大澤

〈上位受賞者作品〉

會員の部

南方歸去半年天內殿今年異昔曾見開北坤移定信看題日月史高懸行隨秀
 聲一登仙遊世道煙烟謀謀自恣深恩陪侍臣若科在至聖人前輕接疑兒
 白毫光寺道宸者福感店支道愛出情漫切景摩泛海海火長鈴聲在尾聞
 天法煙表晨飄接御香誰謂此中難可到自憐深院得徘徊沈吟期時云。

大賞 山本楓子

銀燭朝天紫陌長禁城春色曉蒼蒼千條弱柳垂青瑣百轉深
 營遠建章幸勿那聲隨玉墀少衣冠身惹却爐香共冰思波
 鳳池上朝染精侍君三草色青柳色黃花應亂李花香未
 風不為吹愁去春日偏依惹恨長 於中柳老 賈至詩 志美子

準大賞 小田惠美子

少年場夢盡已昏漁梁後頭身淚噴人隨沙岸向
 似柳子去乘舟歸處門未開照開燈樹忽到廳公接
 陸處農麻如侵長深寧惟存幽人自來云 法美子

知事賞 前田沾泉

自似輕雷軟似綿 東風飄泊寂堪憐
 不如燕入桃花水 化作浮萍轉得圓

今和甲辰一月十號 岸信美社 柳尔 秘聖上之清風居而宅六

總領事賞 井上麗翠

中書畫賞 恒川玲舟

中日賞 鈴木久江

隴上蕭索化盡面亂存圓鏡永年鋪把出而予重初及月點波心顯
 數葉移 彌頭抽采福音羅襪帶 屢新蒲未能拋得抗州云
 一水何年是此流楓雲對面初佳返思 恒川畫 恒川玲舟

東書藝賞 恒川玲舟

準會員の部

春山如畫事管晚夜三响柳水在月
 舟花香滿衣與在每遠近欲去惜芳
 花市望鐘鳴不樓甚深翠水 何遠志

市長賞 阿久津研道

春雪滿空牙觸處似花開
 之之園重橋 羊窗是年海

東石丸 柳 長官 秋美子 志美子

県教委賞 近藤秋香

長安雲後心去均積連勝 再逢燈輝在玉珂迷
 曉騎先 伴報揚是於西一月月 曉天仗小報時
 重持聖團妙道似冰 散白雲由來此曲秋梯 一筆子

市教委賞 下山竹葉

浩蕩清江任依保搖風解維重雨外
 須掉夕陽中江州生竹徑巖巖豈舊景
 請翁之愁且返與昔何大新 志美子 恒川

中日賞 大野清泉

中日賞 渡辺栄子

中日賞 渡辺栄子

東書藝賞 春日井世思子

東書藝賞 春日井世思子

東書藝幹部による 第71回展 私の選んだこの作品

今年も会長以下幹部六名の先生方に賞の対象とならない院人(常任理事以上の役員を除く)の中から、ご自分の社中以外でこれと思う秀作を八点選んでいただいた。その方々の姓号と作品写真、そして内二作品の講評を紹介します。(敬称略)
尚、この中から九月開催の東書藝選抜小品展の出品者が決定されていきます。(連続出品は無し)

風岡五城会長

①立松 勝

自由闊達な書きぶりもさることながら、着想のおもしろさをかう。

②横井青蓮

印四顆、それぞれに布字と刻風も変じて見る人を楽しませる。

- ③富永 壺洞
- ④鬼頭 青峰
- ⑤岡本 翠園
- ⑥川口志満子
- ⑦横井 清泉
- ⑧水谷 紫舟

安藤清舟副会長

①毛利天岳

杜甫詩三行。紙面全体奇抜な展開をせず、文字の大小を駆使して完璧な線条で行間良くまとめた快作。まさ

に書の本道を学んでいる。今後一層の活躍を期待して
います。

②石丸琇湖

黄淮句。自由闊達な運筆から修練の跡がうかがえる堂々の作。年季の大切さを感じさせられます。

- ③菅沼 松峯
- ④清水 玲飛
- ⑤松枝 石草
- ⑥堀渕 桂花
- ⑦角脇 尚園
- ⑧金谷 典子

谷口竹城常任参事

①水谷紫舟

線質充実、強く深い。生氣あふれる作。

②高橋 雅

一字一字の形が魅力的で人をひきつける。全体の構成

も素晴らしい。

- ③富永 壺洞
- ④畑中 花影
- ⑤三浦 希韶
- ⑥澤 麗水
- ⑦鳥居 玉香
- ⑧清水 玲飛

松浦白碩常任参事

①清水玲飛

墨量豊かで熟練した力強い線は躍動感があり、余白の美しさを作り出している素晴らしい作。

②三浦希韶

木簡の書風、大胆で独特な書きぶりで筆勢もあり、空間に留意した好感の持てる作。

- ③澤田 花儼
- ④松枝 石草
- ⑤蔦 皓月
- ⑥神野 富子
- ⑦坂口 朱箭
- ⑧稲垣 穂月

水谷紅楓常任参事

①岡田静嶺

力むことなく悠々と自由自在に書いていて、長年の書に向かう意気が窺える。

②竹田清章

墨量多く、線にしつかり鍛えられた修練の跡が感じられて素晴らしい。

- ③角脇 尚園
- ④遠山 穂光
- ⑤好田 小沙
- ⑥金谷 典子
- ⑦磯貝 紫箭
- ⑧篠原 蕙風

木村大澤理事長

①大竹柚月
曲線を交え、動きある隷書体がユーモラスで目をひく。あえて不安定な字形にして味わいあり。

②河野正子

長条幅でのちらしの妙が魅力的な仮名。自然に流動する線が美しい。

- ③菅野 香楓
- ④伊藤 緑穂
- ⑤吉川 馨泉
- ⑥三田 敬華
- ⑦磯部 麗光
- ⑧浦野 穆風



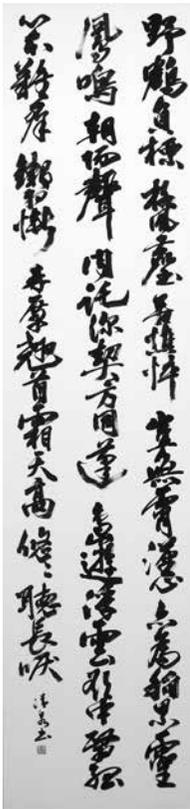
第1会場風景

第2会場風景





風岡選 川口志満子



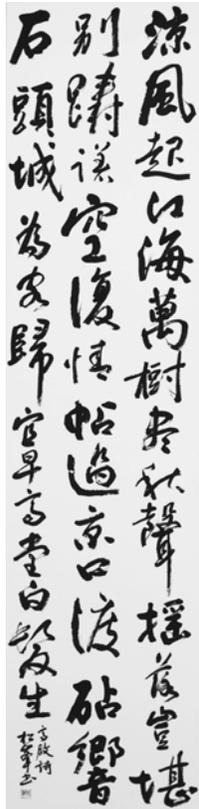
風岡選 横井清泉



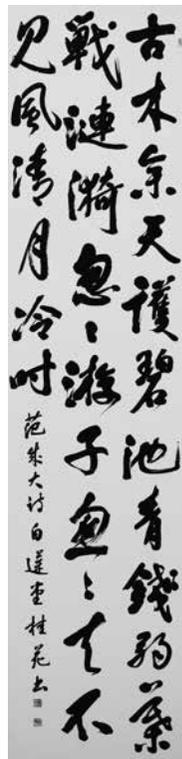
安藤選 毛利天岳



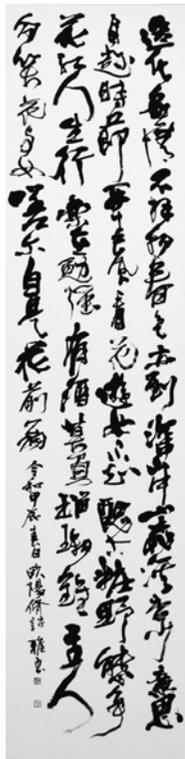
安藤選 石丸秀湖



安藤選 菅沼松峯



安藤選 堀淵桂花



谷口選 高橋雅



谷口選 畑中花影



谷口選 澤麗水



谷口選 鳥居玉香

第71回東書藝展 受賞者に聞く

今年も栄えある賞に輝いた皆さんの中から、会員・準会員の部の上位入賞十二名の方々にアンケートをお願いした。設問内容は次のとおりで、受賞作品は三頁に掲載しました。

- ① 現在学んでいる古典は。
- ② その古典のどこに魅力を感じていますか。
- ③ 今回の出品作で、制作上特に大切にしたいことは。
- ④ (受賞を機に) これから挑戦してみたいことは。
- ⑤ ご自身にとって「書道」とは。
- ⑥ 受賞の感想と今後の抱負。

◆会員の部 大賞



山本 楓子

- ① 書譜。
- ② 変化に富んだ運筆。
- ③ 文字の大小や線の強弱、全体のバランス。
- ④ 様々な古典の臨書に挑戦し、書技の向上を目指したい。
- ⑤ 物心付き始めた頃から習っていて、掛け替えない存在。筆を持つ度にワクワク

します。

⑥ この度は素晴らしい賞を頂き、誠にありがとうございます。幼い頃から教室に通い、憧れていた東書藝展でこのような賞を受賞出来て驚きと喜びでいっぱいです。これも日頃よりご指導くださる大竹翠葉先生のお蔭と、



大賞・喜びのことば

深く感謝申し上げます。この度の受賞を新たな出発とし、これまで以上に精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

◆会員の部 準大賞



小田恵美子

- ① 北魏楷書の孫秋生造像記、楊大眼造像記。
- ② 力強さと勢いのある線。
- ③ 北魏の力強さを表せるような勢いのある線を心がけ、文字の大きさや線の太さに変化がつくよう意識しました。
- ④ 北魏の書を臨書することでその表現方法を学び、作品作りに活かしたいです。
- ⑤ 書は大好きで大切なもの。そして、自分の心が映されるものだと思います。
- ⑥ この度は身に余る賞を賜り、誠にありがとうございます。日頃より熱心にご指導下さる壁谷桔華先生はじめ、宏道書会の先生方のお蔭と深く感謝申し上げます。また助け合い励まし合える温か

い教室の皆様にも、心より感謝いたします。これを機に新たな気持ちで、より一層精進して参ります。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

◆会員の部 知事賞



前田 沽泉

- ① 呉昌碩、王鐸。
- ② 力強く味わいのある線。
- ③ 線質の強さ、鋭さの表現。
- ④ 迫力ある作品を目指して構成も工夫し、様々な古典を学びたいです。
- ⑤ 人生を楽しく彩ってくれるもの。
- ⑥ この度は知事賞を頂き、誠に光栄です。日頃よりご指導下さる羽根田菖橋先生、菖風先生に心から感謝申し上げます。すさまじいスピードで変化する社会の中で、書という伝統ある芸術と長く向き合っていけたらと思います。今後も限界を決めつけず、一層精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

◆ 会員の部 総領事賞



井上 麗翠

◆ 会員の部 中日賞



鈴木 久江

- ① 蘭亭序。
- ② 字形、運筆。
- ③ 墨の入れ方、文字のめりはりを意識しながら筆を運んだ。
- ④ まだまだ努力不足なので、これからも先生方のお力を借りてこつこつと勉強を重ねて参りたいと思います。
- ⑤ 習うほどに広く奥深さを感じさせられるので悪戦苦闘ですが、紙面に向かって筆を走らせていると無心になれ、至福感をもたらししてくれます。
- ⑥ この度は思いがけず素晴らしい賞を頂き、恐縮しております。誠にありがとうございます。故・豆子甲水之先生、安藤清舟先生、水谷紅楓先生、松岡麗泉先生の温かいご指導のお蔭と感謝申し上げます。楽しく精進して参りたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願致します。

◆ 会員の部 東書藝賞



恒川 玲舟

- ① 王鐸。
- ② 連綿の多様さとリズム感。
- ③ 墨量の変化、文字の大小、長短、行間の美しさ。

- ① 高野切第一種。
- ② 伸びやかな線の美しさ。
- ③ 線の力強さと明るさ、さわやかさ。
- ④ たくさんの古典に挑戦し、表現力をつけたい。
- ⑤ 集中力を高め、自分自身を向上させるもの。
- ⑥ この度は身に余る賞を頂きありがとうございます。日頃より熱心にご指導下さる伊藤春魁先生のお蔭と深く感謝しております。今後とも一層精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願致します。

- ④ 苦手意識がある分野の課題と引き続き向き合い続けるとともに、新しい分野の課題にも取り組んで参ります。
- ⑤ 繰り返し何度も練習することで常に新たな課題が映し出され、更なる高みを目指し続けられる場所です。
- ⑥ この度の受賞におきましては、宏道書会の先生方の丁寧なお導きと諸先生方の適切なご助言、同門の皆様のお支えのお蔭と衷心より御礼申し上げます。書道を通して出会った皆様と楽しい時間を過ごしながら、書の研鑽を積んで参りたいと存じます。旧に倍してよろしくお引きまわしの程お願致します。



乾杯



壇上の上位受賞者



大村大澤 理事長



安藤清舟 副会長



知事賞



大賞授与



⑥ 技量も人としても未熟ながらこのような栄えある賞を頂き、大変ありがたく思っております。日頃熱心にご指導下さる安藤清舟先生には言葉で表しきれない程感謝しております。今後何十年と習練を続け、先生方のような一人前になれるように頑張っていきたいと思っております。

◆ 准会員の部 市長賞



阿久津研道

① 多宝塔碑。
② 形、線の綺麗さ。
③ 基本的な字形、余白、墨の濃淡、つながり、落款。

④ 基本的な技術をしつかり身につけて、より大きな作品を大きな字で書いてみたい。
⑤ 生活の中で唯一頭を空にして、目の前の作品に集中できる大切な時間をくれる楽しみです。

◆ 准会員の部 県教委賞



近藤 秋香

① 書譜、蘭亭序。
② 心地良い呼吸を感じる線や空間の美。

③ 自然を感じる流れや陰陽のバランス。
④ 学識を深めること。大字作品。
⑤ なくてはならないもの。
⑥ この度は身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。故・豆子甲水之先生に助けを求めながら書作に向かいました。日頃より温かく見守り、アドバイスを下さる新道書道会の諸先生方に心より感謝申し上げます。一生をかけて精進して参ります。どうか今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

◆ 准会員の部 市教委賞



下山 竹葉

① 張瑞図。
② 表現の豊かさや勢いのある

線。
③ 豊かな線が書けるように筆の動きを意識したことと、全体を俯瞰して書こうとしたこと。

④ 素晴らしい先人たちの古典を学び、さらに自分の技術や知識を伸ばしたいと思えます。

⑤ 大変なことがあっても、書道に向き合うことで心が落ち着き、夢中で書くことができます。そして書けたとき、大きな喜びを味わうこともできます。

⑥ この度は素晴らしい賞を頂き、誠にありがとうございます。心にご指導下さる大竹翠葉先生のお教え、諸先生方のお支えのお蔭と深く感謝申し上げます。これからも精進して参りますので、ご指導の程、よろしくお願ひ致します。

◆ 准会員の部 中日賞



大野 清泉

① 北魏の元顛備墓誌銘。

② 線の力強さや流れ。
③ 抑揚と文字のバランスに気をつけて書きました。

④ 仮名の臨書や隸書など、様々な書体に挑戦したいです。

⑤ 心を落ち着かせ、自分と向き合う時間。
⑥ この度は思いもかけない受賞に驚き、大変恐縮しております。これもひとえに寺尾如楓先生の温かく丁寧なご指導のお蔭と深く感謝しております。まだまだ勉強不足でわからない事ばかりの私ですが、楽しみながら良い作品が出来るよう、一生懸命取り組んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。

◆ 准会員の部 中日賞



渡辺 栄子

① 小島切。
② 難解な変体仮名と運筆のおもしろさ。
③ 好きな作者の歌であり、その情景を想像しながら線の太細、かすれを出し、全体

のバランスを考えながら制作しました。

④ 隷書体。

⑤ 無心になれることで、精神修養の時間となります。

⑥ この度は思いがけない賞を頂き、誠にありがとうございます。ご指導下さる伊藤春魁先生のお蔭と、心より感謝と御礼を申し上げます。また同じ教室の皆さんからの良い刺激と支えがあつてのことと合わせて御礼申し上げます。これからも一層精進して参りますので、どうぞよろしくお願致します。

◆ 準会員の部 東書藝賞



春日井世思子

- ① 空海、手島右卿。
- ② 勢い、鋭さ、力強さ。
- ③ 生命感にあふれた勢いのある線で、観た人の心に灯火を与えられるような作品を目指しました。
- ④ 書の学びを深め、現代性をより追及していきたいです。
- ⑤ 無心になれる時間であり、

心を磨く場だと感じています。

⑥ この度は身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。これも日頃より熱心にご指導下さる富永奇昂先生のお蔭と、深く感謝しております。この受賞を機に一層精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願致します。



贈賞風景



大村名誉会長



ご到着

◇ 令和6年 東書藝総会 ◇

六月十六日(日)、令和六年の東書藝総会が東区中電ホールで行われた。会員数六五五名、出席者五九名、委任状預かり三六八名、合計五二七名にて総会は成立。羽根田菖風常



任理事の司会で安藤清舟副会長の開会のことばに始まり、風岡五城会長、木村大澤理事長が挨拶。司会者一

任により議長に荒川青曠常任理事を選出し、以下の議事の報告・審議に入った。

- ① 令和五年度事業報告
- ② 令和五年度会計報告
- ③ 令和五年度監査報告
- ④ 令和六年度事業計画並びに予算案
- ⑤ 新役員について
- ①～⑤は承認。続いて七十一回展による昇格者代表・山本

楓子氏に委嘱状を授与。また、大村秀章名誉会長のご来場・お言葉を賜り、最後に水谷紅楓常任参事の閉会のことばで総会は無事終了した。

休憩をはさみ愛知学院教授、劉作勝先生講演「康有為の碑学論と近代書法」が行われた。劉先生は二〇二二年八月に美術新聞社より「康有為碑学の研究(訳・范国強先生原著)を出版。先生ご自身の学びから、碑帖相融、真跡に最も近い碑文と、帖文両方合わせて研究することの意義を熱くお話しされた。素晴らしい講演に深く感謝申し上げます。



劉作勝 先生



大村秀章名誉会長・知事

'24 「今日の書」 代表作家展

中部圏書芸作家協議会主催

令和六年七月九日(火)～

十四日(日)、一書の伝統に根ざした「今日の書」をもとめて一をキヤッチフレーズに、「今日の書」代表作家展が名古屋市民ギャラリー栄で開催された。中部圏書芸作家協議会の四団体が参加して、東書藝からは十四名の出品。幹部そしてそれぞれの師が今どう

いう方向性なのか、小品から表出する芸術観を窺い知る良い機会と思う。ここに全部の作品を掲載したのでじっくり研究されたい。(敬称略)



会場風景

品を掲載したのでじっくり研究されたい。(敬称略)



会長 風岡五城



常任参事 松浦白碩



常任参事 谷口竹城



副会長 安藤清舟



副理事長 富水高昂



常任参事 水谷紅楓



理事長 木村大澤



常任理事 三品芳翠



副理事長 山本晴城



副理事長 伊藤春魁



副理事長 安藤餘香



常任理事 宮本華楓



常任理事 井浪幸澤



常任理事 荒川青嶺

追悼 常任参事 西尾邑城先生



令和六年三月二十八日、西尾邑城先生が逝去された。先生は清和会代表、本会常任参事として活躍され東書藝に無くてはならない大きな存在だった。ここに高弟のお二人より追悼のことはを寄せて頂いたので掲載し、あらためてご冥福をお祈りいたします。

合掌

邑城先生を偲ぶ

清和会 市川佳泉

四日前に稽古していたたたばかりなのに急に亡くなられ、実感がわきません。ずっと糖尿病と闘いながら撰生されていましたが、一か月程前よりお元気がなく皆で心配していた折でした。よく思い出すのが、東書藝の研修会で他の社中の方が「西尾先

生優しいでしょ」と聞かれ、「ええ優しいですよ」と答えてすぐ、「いえ厳しい！」と言って皆さんに大笑いされ、先生ご夫妻も笑っておいででした。色々楽しい話をしていても、書の批評や筆の使い方等は厳しく根気よく教えてくださいました。また「先生のようリズムとキレのある書が書きたいです」と言うとい作品を見る事、稽古あるのみです」と話されました。本当によく臨書をされていました。

今書いていて「ここのうしたら？」と先生に尋ねながら紙面に向き合っています。

先生のお言葉

を思い出しなが

ら精進して

いきたいです。

先生、長い

間ありがとうございました。

西尾邑城先生を偲んで

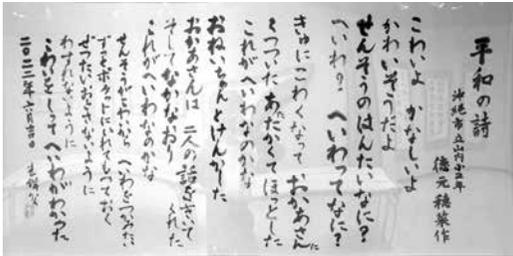
清和会新代表 牧野邑翠

三十数年前に長久手市の公民館教室で書道を始めた時の先生が西尾先生でした。休んばかりのダメな生徒でしたが、文化協会の春・秋の作品展に県文連美術展、東書藝展等に指導していただき、書の奥深さや難しさ、書けた喜び、楽しさなど沢山教えてくださいました。また病に倒れた奥様の介護をされながらの作品制作や大人や子供教室の指導は、心身ともに大変でも丁寧で優しく、部活後に遅く来る生徒にも親切熱心に教え

ておられました。

最近はお耳が少し不自由になりご不便もありましたが、本人は至ってお元気で、ガンが見つかり余命宣告を受けてからも創作意欲は衰えることなく、四十回目の社中展に向けて意欲満々でした。亡くなる三日前の夕方、子供教室後に声かけしてお別れしましたが、これが最後になるとは思ってもよらず残念でなりません。そして今更ながらに「師」のいない心細さ、その重さというものがたさを痛感しています。

24 今日 書展



令和4年 清和会書展



令和5年 清和会書展



令和6年 東書藝新春代表作家展

第45回記念 宏道書会選抜展

五月十四日～十九日、栄サ
ンシティギャラリーで宏道書
会選抜展が開催された。同展は
四十五回記念展。大村東書藝名
誉会長のご来場も賜った。ここ
に代表の山本晴城先生が、来た
る八月の五十回宏道書展に合わ
せての思いを寄せてくださった。

「歴史を紡ぐ」

代表 山本 晴城

一九七四年、第一回宏道書
展として仄々の声をあげ、半
世紀を重ねて今年五十回記念
展を八月に迎えます。

顧みますと、今は亡き先代山
本宏城の師匠大池晴嵐先生から
宏道書会の名前を頂戴し、大池
先生の基本精神である「古典を
基調とした中で、百花百色をモ
ットーとする作品作り」を教え
とし、今日まで来ました。この
理念は東書藝と同じです。

最近の会員の作風を見てみ



名譽会長 風岡五城



会長 山本晴城

ると、あたかも新芽が萌え出
すかの如く、処々に若返った
作品が多く見受けられるよう
になりました。この選抜展で
も皆様に新風を感じて頂けま
したら大変嬉しく思います。
五十回を迎えるに当たり、記
念展を八月二十日から二十五日
まで名古屋電気文化会館で、十
月二十五日から二十九日まで東
京有楽町朝日ギャラリーに於い
て「創立五十周年記念宏道書会
代表展」を開催し、幹部作品
二十三点と小品（新作）も展示
します。これは宏道書会発足以
来、初の試みです。東書藝会員
皆様のご高覧賜りますようお願い
い申し上げます。

第65回記念 新道書道会展

五月三十一日～六月二日、
四日市市文化会館で開催。代
表の豆子紫甲
先生の元気な
お姿も拝見で
きた。今回安
藤清舟先生よ
り寄稿いただ
けたので紹介
致します。



会場風景

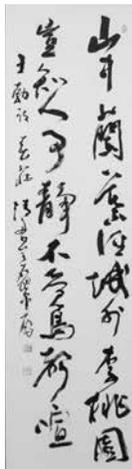
第65回新道書道会展

安藤 清舟

今回節目の第六十五回
展を迎えましたが、昨年
豆子紫甲先生の生誕百
年の記念行事として「甲
水之書と墨画の世界」展
を開催。その後まだ間も
無いこともあって記念の
行事を控えました。

今展出品者の各々が師
よりご指導いただいた
事を大切に、また常に

「書とは何か」を考えつつ作
品制作に取り組み、篆・隸・
楷・行・草そして仮名から、
大作や小品、軸・額作品を完
成させ、百二十数点を展示。
連日東書藝の先生方を始め関
係各位、また中日新聞の報道
記事を目にして下さった多く
の方々にご来館いただき、三
日間盛会の裡に終了する事が
出来ました。誠に有難く厚く
御礼申し上げます。



安藤清舟



水谷紅楓



加山幽石

書展訪問

◇第29回無名會書展

六月十八日～二十三日、名古屋市民ギャラリー栄にて開催。展示は、渡辺清香代表以下13名計16点。会場中央に置かれた故・澤井瘦蛙子先生の約五十点の色紙・短冊は能登半島地震義援金に協力下さった方に差し上げてほとんど無くなったとお話。壁面の額「良寛さんのうた」が、会場の情緒的な雰囲気を作り高める。全体がゆつたりと飾られて、作品ともども空間をととも大切にされているなど感じる展覧だった。無名會の益々のご発展を。



会場風景



渡辺清香代表

TOPICS

七月二十七、二十八の両日、愛知県護國神社奉納学童献書大会が開催された。愛知県護國神社主催、中日新聞社、中川区書道連盟（風岡五城会長）後援。

今年で二十五回目となる。東書藝会員が指導する出品者も多く、小中高生応募約千点の中から七十点の上位者が社殿内で表彰された。

毛筆での揮毫が特別の事でなく未来の能書家が育つよう、こうした行事、また指導者・書塾の役割は大きい。生徒諸君の継続を心から願う次第だ。



今後の予定

◇東書藝夏季一泊研修会

会期 9月8日(日)～9日(月)

会場 ホテルパーク(岐阜市)

◇第27回東書藝選抜小品展

会期 9月10日(火)～15日(日)

会場 栄サンシティギャラリー

主催 東海書道藝術院

◇'24心象展

会期 9月10日(火)～15日(日)

会場 愛知県美術館ギャラリー

主催 好日社(鈴木紫舟)

◇第58回碩山書院一門展

会期 9月14日(土)～15日(日)

会場 蒲郡市民会館東ホール

主催 碩山書院(大竹翠葉)

全振興会

◇第66回游心書展

会期 9月18日(水)～23日(月)

会場 愛知県美術館ギャラリー

主催 游心書道会(松浦白碩)

◇第42回飯田書人会展

会期 9月27日(金)～10月1日(火)

会場 飯田創造館

主催 飯田書人会(加山幽石)

◇第24回心書会展

会期 11月3日(日)P.M.1:30～5日(火)

会場 亀山市文化会館中央

コミュニティセンター

主催 心書会(安藤清舟)

◇第47回梓会書道展

会期 11月12日(火)～17日(日)

会場 愛知県美術館ギャラリー

主催 書道研究梓会

(勝川香艸・伊藤春魁)

◇第41回花墨会展

会期 11月中旬予定

会場 三重県孤野町図書館二階

主宰 松岡麗泉

編集後記

◇今号は七十一回展の報告を主にまとめました。ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。記念の七十回を超えて新しい息吹が諸所に感じられ、式典でも笑顔が弾けて充実した一週間でした。◇東書藝も高齢化の波を避けて通れないが、研修会等若い力で好ましい変化が見えてきたとの評もある。これからも会員皆で切磋琢磨していきましょう。◇酷暑、豪雨など気象による災害が激甚化している。自然の前に人間は小さい。命の危険に備え、くれぐれも用心・ご自愛を。

令和六年八月 第一五二号

発行 東海書道藝術院

編集 加藤 松亭

堀江 龍舟